

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270600269		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム合歓の郷(やかた)		
所在地	島根県江津市後地町829番地1		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.katgokenisaku.mn1w.go.jp/327/index.php?action\\_koumivou\\_detail\\_022\\_kanji=true&lievosyoCd=3270600269-](https://www.katgokenisaku.mn1w.go.jp/327/index.php?action_koumivou_detail_022_kanji=true&lievosyoCd=3270600269)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年11月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の役割の継続とそれぞれの状態に合った対応が出来る職員の育成。関連施設や地域との「行き来のある関係」作り。利用者様の生活が建物の中だけにとどまらず、買い物や畑仕事、散歩、ドライブなどの活動をする機会を可能な限り作っている。建物も古くなってきており、利用者様と一緒に手直しもしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の今を大切に、利用者の立場や自分の親だったらと考えながら、利用者が楽しく人生を全うできるお手伝いをしたいとの思いで取り組んでいる。利用者が散歩や外出、花や野菜作り、作業などを楽しみ役割をもって生活できるように支援し、地域の催しには可能な限り参加し店や人との関わりやつながりを大切にしている。地域の中の事業所として清掃活動に参加したり、夜間保護された認知症状の人を一時受け入れするなど、地域の人や行政と協力して積極的にできることを行っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回の職員ミーティングの際に全員で理念を唱和している。	毎月のミーティングで唱和している。法人発行の新聞を通して前代表から設立当初の思いを聞く機会があった。日々のケアを振り返り、理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルスの感染対策の為様々な活動が十分にできなかった。(保育所や各地区の文化祭等)地域の美化活動には参加。	地域の催しに可能な限り参加し、地域の人とつながりながら暮らせるように支援している。事業所近くの道路の掃除など地域の活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で活動の様子等写真を通してお知らせしている。 また、当法人の広報誌を定期的に発行し、各地区、関連施設に配布・回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は書面での開催がほとんどであるが、その際には書面で状況報告を行った。	現在、感染状況に合わせ書面で利用者の状況や取り組みを報告し、情報や意見など聞くようにしている。他事業所のコロナ感染防止対策の情報や、家族から緊急時の受診対応に対し感謝の言葉があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取る機会はあまりなかった。	日頃から困難事例の対応方法などを相談し助言や協力を得ている。コロナ禍での利用者との関わりについて保健所の助言を受け日々のケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	努めている。	施設内研修、ミーティングで学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。見守りや作業、散歩など一緒に行い、利用者の行動を妨げないように支援している。運営推進会議でも報告し話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられるが、制度について学ぶ機会があまりない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安が無い様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年度は介護相談員さんの来所があった。また、ご意見箱を設置している。意見や要望を伝え、出来るだけ運営に反映させるようにしている。	新聞やたより、面会時に日頃の様子を伝え意見や要望を聞き運営に反映させている。運営推進会議で外部の人に意見を言う機会がある。感染状況に合わせて面会の方法を伝え家族の協力を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に機会を設けてはいないが、日常的に意見を話している。	日頃から意見を聞き改善に繋げている。職員の疑問から「食のプロジェクト」を設け、法人内のどのグループホームでも上手に節約しながらも満足した食事作りができるように皆で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが職員すべてが満足しているわけではないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で研修そのものがあまり開催されていないが、その中でも可能な限り研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の学習会(家族介護者教室等)への参加の促しや運営推進会議での行き来はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のやりたい事、興味のある事を聞き、サービス提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何かあれば常に連絡しており、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に介護なのか、医療面での関わりが先ではないのか等検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に作業等行いながら築けるように努めているが、職員全員が同じ気持ちになれてはいない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、短時間の面会時などで利用者様の様子を伝え、協力をいただけるよう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り努めているが、まだまだ不十分に思う。もっとその場所へ行く事等が必要と思われる。	利用者の出身地域の行事に可能な限り参加している。馴染みの散髪屋、買い物やドライブに行き声を掛けてもらうなど、関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆の輪の中に職員が入ったり、本人の意思も尊重しながら利用者様同士で共に過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際にも相談するように声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの聞き取りや家族様からの聞き取り等情報収集し、把握に努めている。	日々の関わりの中で表情や行動、言葉などから意向を把握している。思いを言葉にしにくい人にも好きな事や楽しんでする事を見つけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や利用者様、関係機関から情報収集しているが、まだ十分でない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の家事や作業の中や他の職員からの情報により状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努めているが、家族様からの聞き取り等まだ不十分に思う。	利用者、家族、関係者と話し合い、今までの暮らしに近い生活ができるよう現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を通して情報の共有・支援の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てが家での生活の延長線上にあると考えしており、例えばリハビリも専門的な内容もあるが、それだけでなく、畑仕事や店を歩くなど取り組んでいるが職員全員にいきわたっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年コロナ禍で十分な事が出来ていないが、今までは各地区の運動会や文化祭に行ったり出展したりしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診していただいている。また、必要に応じて他科へ受診もしている。	利用者それぞれのかかりつけ医と連携して受診や訪問診療ができるよう支援している。かかりつけ医は深夜でも協力してもらえ適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告相談し、出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係作りとして特別なことはしていないが、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に意向の確認はしている。主治医を除く地域の関係者とチームで支援とはなっていない。	家族、かかりつけ医と話し合い、重度化した場合の指針や具体的支援など事業所でできることを伝えている。看取りについて家族の要望をできる限り反映し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は受けているが、慌てるが多々あるため不十分に思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域への協力依頼はしているが、一緒に訓練はできていない。火災・土砂災害の訓練は行っている。	日中、夜間想定での火災訓練や、隣接しているこども園と合同で土砂災害想定での避難訓練を実施している。消防署員の助言から避難した後の居室の確認方法としてネームプレートを外すなど改善につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。	「自分は大切な存在」「誰かに必要とされている」ということを感じてもらえるように言葉で伝え、手伝ってもらった時には感謝の気持ちを伝えている。援助が必要な時、プライバシーに配慮した声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な選択肢を出し、選んでもらったりしているが、まだまだ不十分に思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等決まっているのは職員の都合ととらえ、まだまだ十分に対応できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選ぶ事が出来る人は選んでいる。が、全員ではなく、不十分に思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ一緒に行うように努めている。	食材切りや炒め物などできることを職員と一緒にしている。畑で作った野菜を使ったり鰻をさばく所を普段台所に来ない人も見にきたり、楽しみな場面作りをしている。職員も一緒に食べ話題が献立に反映することも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が不足しがちな方は好みの物を提供したり食事形態や量など工夫している。(カルピスや小さいおにぎり等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に努めている。	トイレで排泄できるように声をかけ支援している。夜間、希望する人には居室にポータブルトイレを置いている。利用者にあった支援の方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や食事等気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が日中であり、本人の希望に沿ったタイミングではないこともあるが、入りたい入りたくないの気持ちは尊重している。	時間帯は決まっているが、無理強いせずゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。隣接している温泉はコロナ禍であり中止しているが感染状況をみて利用予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	運動、入浴、室温等に気を付け努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	皆で確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ではできていないがドライブや畑仕事、手作業等可能な範囲で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外へ出かける機会を出来るだけ設けている。普段出かけられない場所へのドライブ等しているが、地域との協力はあまりない。(独りで外を歩かれる方が居られることは伝えている)	毎日の散歩、買い物やドライブ、花壇や畑で作業をするなど支援している。畑での作業の後、汗を拭きながら「生き返った」と言う人もいる。畑にパラソルやイスを持参したり車イス利用の人もリフト車で外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少量のお金を持っておられる方もおられるが使える場所が遠い。買物に出掛けた際に所持金で購入される方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分ではないが、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等工夫しているが、まだまだ不十分に思う。	季節に合わせた壁画や花を飾り、中庭から外の景色を見ることができる。状況に応じてテーブルや席の配置を変え、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を色々な所においたり工夫しているが、まだまだ不十分に思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス等持ってきてもらったりと努めている。	箆笥、仏壇、布団など希望の物を持参し、写真を飾るなどしている。手紙を書いたりゆっくり電話で話ができるようにその人に合わせた環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努めているが、まだまだ不十分に思う。		